

菊川市の誕生と私

長いようで短い20年。皆さんはどんな20年を過ごしてきたでしょうか。

ここでは、市内で暮らす4人の皆さんに菊川市誕生当時のことや、20年間の思い出などを、ご自身の20年前の写真とともに、それぞれ振り返っていただきました。

小澤

陸空さん
(西嶺田)



菊川市誕生当時の思い出は？

菊川市と同年の私

私は2004年生まれで、当時生まれたばかりでした。菊川市が私と同年であることは、小学生の頃、学校で市制施行10周年をテーマに作文を書いたことで初めて知りました。何を書いたかはもう覚えていませんが、「菊川市が誕生したのは結構最近のことなんだな」と感じたのを覚えています。

この20年を振り返って

地域に支えられ「プロジェクションマッピング」を実施

小さい頃から、地区のお祭りなどに参加していましたが、高校生の頃、市民協働センターへ出向き、地域との関わりが広まりました。特に、高校2年生の頃、自ら赤レンガ倉庫でプロジェクションマッピングを企画した時は、学校の先生を始めたくさんの人が協力してくれました。単なる好奇心で始めた企画でしたが「自分の要望に応え、支えてくれる人がこんなにもいるんだ」と地域の温かさを実感しました。現在は、社会人2年目で実家に住んでいますが、仕事の都合で菊川を離れることがあるかもしれませんが、そうなったとしても、支えてくれた仲間のいる菊川に必ず戻りたいと思っています。

菊川市誕生当時の思い出は？

県外へ出てもお祭りには欠かさず参加

私は当時、県外の大学でスペイン語や中南米の文化などを学んでいました。小学生の頃、菊川市の国際交流協会の事業に参加し、外国籍の人と交流したり海外に行ったりと多文化に触れる機会が多く、海外に興味を持ったことがきっかけです。県外へ出ても、大好きな地元のお祭りには毎年欠かさず参加していました。

この20年を振り返って

個性を大切にこの地で暮らし続ける

大学卒業を機に、再び故郷へ戻ってきました。社会人1年目から、障がいのある人を支援する東遠学園で17年間働き続けています。菊川で出会ったタイ人の夫と結婚し、現在2児の子育て中。何年経っても変わらない菊川の豊かな自然や、たくさんの繋がりがある地元で子育てできるのはとても安心です。これからも出会う人と個性を大切にしながら、この地で暮らし続けていきたいです。



高柳

阿季さん
(吉沢)

